



ゲストティーチャーを招聘しての学び

本校では、子どもたちの学びを深めるために専門的な知識や経験をもった方々を招いて学習を行っています。国際化や情報化が進む中、子どもたちが希望をもち、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力を育てていくことが必要です。そのためには、学習活動で学ぶ意欲や面白さを体得させる場づくりを設定することが大切だと考えます。そこで、その学びの意欲を喚起させるための手立ての一つとして、ゲストティーチャーを招聘して授業を実施するようにしています。

10月13日(水)には不審者対応訓練を行いました。細川駐在所の警察官の方に来ていただき、不審者から自分の命を守るための方法について教えていただきました。防犯ブザーを携帯すること。不審者の情報があったら、警察署に通報すること。不審者から命を守る標語「いかのおすし」の話などについて教えていただきました。「いかのおすし」とは「知らない人についていかない」「他人の車にのらない」「おおごえをだす」「すぐにげる」「何かあったらしらせる」のことで



不審者対応訓練の様子

実際に不審者対応にあたっている方の話を聞くことで、不審者に遭遇した場合、子どもたちは自分で考えて対応しようとする意欲が高まったと考えます。

また、10月20日(水)にはダイハツ工業の社員の方に来ていただき、「ものづくり体験教室」を実施しました。この学習は5年生を対象にしたもので、「自動車をつくる工業」の学習単元の一環としてゲストティーチャーを招聘しての体験学習を設定しました。

初めに流れ作業の体験をしました。プラスチック製の組み立てブロック(レゴ)を使って、車を完成させる体験活動を行いました。子どもたちは、一つの工程を任せられます。任せられた仕事に対して責任をもってやり遂げないと車は完成しません。子どもだけでは作業工程の人数が足りないため教職員も入って行いました。日頃からレゴを使って遊んでいる子どももいるようで、制限時間内に作業を終えている子どもが多かったです。最後に完成した車の点検作業があり、確認すると、不良な車が1台ありました。

そこで、ダイハツ工業の方々がお話されたことは、「不良な車が出てしまうことはある。だれがどの工程を担当しているのかも分かる。しかし、ダイハツ工業では、失敗をした社員を責めるのではなく、その社員が上手く作業ができるよう、みんなで考えている。その結果、不良品は1000台に1台程度です」と話してくださいました。そして、「車づくりには、チームワークが必要で、支え合うことが大切である」と話してくださいました。



流れ作業の体験活動の様子

実際に自動車の製造に携わっている方を招聘して、自動車製造における工夫点や苦労していること、物づくりでのチームワークと責任感の大切さを聞くことで社会人として働くために必要なことは何かを考える機会になったのではないかと感じました。

このように、ゲストティーチャーを招聘しての体験学習の教育的効果には、冒頭に記載した学ぶことへの意欲の喚起を図るといふ以外にも、学校の学習と社会とを関連づけることで、自分の将来について考える機会となり、社会人として自立する力をつけていくことにもつながると考えます。

今後もゲストティーチャーを招聘しての学習を進めていきます。本校の教育へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

学校長 善村 龍昭

この様子はHPでも公開しています。